

5. 黒毛和種繁殖農場で発生したリステリア症

宇佐家畜保健衛生所

○佐伯美穂・長谷部恵理・山中恒星・(病鑑) 武石秀一

【はじめに】

リステリア菌は、牛、めん羊、山羊などに感染し、感染経路によって化膿性脳炎、敗血症や死産をおこすと言われている。また、リステリア症は変敗したサイレージの給与により感染・発症することが指摘されている。今回、管内の黒毛和種繁殖農場の2農場において *Listeria monocytogenes* (以下Lm) による流産が発生したので、その概要を報告する。

【事例1】

成牛44頭と育成牛8頭を飼養する繁殖農場で、WCS、イタリアン、オーツヘイ、野草及び配合飼料を給餌。平成31年1月20日に死産、翌21日に病性鑑定を実施。病理学的検査の結果、諸臓器の血管内に小型のグラム陽性菌による菌塞栓が認められ、敗血症が疑われた。細菌学的検査の結果、死産胎子の主要臓器及び脳からLmを分離。さらに、胎盤、母牛の糞便及び敷料(未使用)からもLmを分離。本症例をリステリア症(牛)と診断。3月に再度糞便と敷料の菌分離検査を実施したが、分離されず。

【事例2】

成牛5頭を単房式で飼養する繁殖農場で、わら、イタリアン、クローバー、丸大豆を給餌。令和元年5月13日に死産し、同日病性鑑定を実施。病理学的検査の結果、肝臓に多発性巣状性壊死、その壊死巣中心部には小型のグラム陽性菌による菌塞栓が認められた。細菌学的検査の結果、死産胎子の主要臓器、脳からLmが分離され、リステリア症(牛)と診断。母牛の腔粘液スワブ、悪露、糞便、牛床等からもLmを分離。7月に全繁殖母牛の糞便、腔粘液スワブ、牛床、ウォーターカップ及び飼料の検査を実施。その結果、5分房中4牛房の牛床と飼料1検体からLmを分離。その後、検査を継続し、8月には全ての検体で分離されず。なお、当該農場では丸大豆を一晩水に浸漬したものを給餌しており、浸漬した丸大豆からLmが分離されたが、乾燥丸大豆からLmは分離されず。

【対策】

発生農場には当該牛の治療と牛舎の清掃及び消毒を指導。管内関係機関に対しては自衛防疫組織会議にて話題提供、さらに機関誌「家保通信」で記事を掲載し、啓発に努めた。

【管内農場のWCS検査】

管内7農場で使用しているWCSを用いてLm分離を実施。7検体全てからLmは分離されなかったが、カビ毒が検出された。

【まとめ及び考察】

今回、2農場でLmによる流産が発生したが、感染源の原因究明には至らなかった。しかし、事例1では石や土が多く混入したカビの生えたWCSを給与していたこと、事例2では浸漬した大豆からLmが分離されたことから、飼料を介した感染が強く疑われた。変敗飼料は流産のリスクがあることについて啓発を進めていきたい。